■本資料のご利用にあたって（詳細は「利用条件」をご覧ください）

本資料には、著作権の制限に応じて次のようなマークを付しています。
本資料をご利用する際には、その定めるところに従ってください。

＊：著作権が第三者に帰属する著作物であり、利用にあたっては、この第三者より直接承諾を得る必要があります。

CC：著作権が第三者に帰属する第三者の著作物であるが、クリエイティブ・コモンズのライセンスのもとで利用できます。

：パブリックドメインであり、著作権の制限なく利用できます。

なし：上記のマークが付されていない場合は、著作権が東京大学及び東京大学の教員等に帰属します。無償で、非営利的かつ教育的な目的に限って、次の形で利用することを許諾します。

Ⅰ　複製及び複製物の頒布、譲渡、貸与
Ⅱ　上映
Ⅲ　インターネット配信等の公衆送信
Ⅳ　翻訳、編集、その他の変更
Ⅴ　本資料をもとに作成された二次的著作物についてのⅠからⅣ

ご利用にあたっては、次のどちらかのクレジットを明記してください。

東京大学　Todai OCW　学術俯瞰講義
Copyright 2013,　後藤春美

The University of Tokyo / Todai OCW　The Global Focus on Knowledge Lecture Series
Copyright 2013, Harumi Goto

2012年度冬学期学術俯瞰講義
「世界史」の世界史

最終回　まとめ

後藤　春美
東京大学教養学部

1-2　世界の中の日本の世界史

羽田正先生

- Introduction, 総論。
- 世界にはいろいろな世界史がある。教科書の例。
- 近代歴史学

３－５　近代的学問としての世界史

島田竜登先生

- 各論（実際に世界の認識はどのようになされたか）ではあるが、大枠的話。
- 近代歴史学。実証。
- マルクス主義、史的唯物論。
- 比較
- 連関、グローバル・ヒストリー

６－７　日本における「日本史」

松井洋子先生

- 前近代日本における歴史叙述。
  　まず中国にならう。支配権力による正史の編纂。
- 18世紀頃から、家・村・地域の歴史を語るということも。

- 明治政府の修史事業。
- 歴史叙述の伝統。19世紀後半にもたらされた近代歴史学と接続。

８－１０ 「正統」の歴史と「王統」の歴史

杉山清彦先生

- 中国とは何か　→　文明、漢人（漢字、教養）、政権
- 中国における「歴史」＝支配の正統性を示す主張、
  審判と評価の記録。

「歴史」という語彙＝現在の意味では日本語からの逆輸入。

- 漢字は共通でも意味は同じではない。

例）「偽」＝僭称している。正統ではない。

８－１０ 「正統」の歴史と「王統」の歴史
杉山清彦先生 （その２）

- 正史＝正統の歴史。正統の継承。
- 国民の歴史を描くという作業は？

- 元と明
  北元は北に撤退したのみ、清に吸収された。

- 中央ユーラシアにおける歴史観と世界観。
  天命、天子、王統の系譜。

11-12　ヨーロッパにおける「歴史」の誕生
西川杉子先生

- 近代歴史学成立以前のイングランド

- 近代歴史学の成立
- 歴史はどのように利用されたのか。

紹介

- 羽田正『新しい世界史へ　地球市民のための構想』（岩波新書、2011年）
  第3章　新しい世界史への道　を中心に紹介。

- 定義＝「世界はひとつ」という世界認識を意識できる内容。
- とりあえず、19世紀前半までを検討する。
- グローバル・ヒストリーと同じジャンルだが・・・。
- ヨーロッパ中心史観や他の中心史観を超える。
- ウォーラーステイン批判、『リオリエント』批判。
- 環境史の可能性。ただし、『銃・病原菌・鉄』にも限界。
- 関係性と相関性の発見
  モノの世界史。　例）川北稔『砂糖の世界史』
  海域世界史の可能性　←　ブローデル『地中海』

若干の考察

- 「新しい世界史」は、すでに存在していて与えられるものではない。むしろ問題提起の状態。
- 歴史学の基本はやはり実証。主張ではあり得ない。
- 強いイメージ＝横につながる歴史。関係性と相関性
  商品取引、海域。ユーラシア。